

2023 第 3 回オンライン講座 Q&A

(注)参加申込書の質問欄に記入されている文章をコピーしています(一部加除:abiko)。

(1)ココヘリをよく理解できてないので、正しく知りたいと思います。 #1

(A)

一言で申し上げると(登山業界の JAF のようなサービスです)、山岳遭難時にご本人や留守宅からの通報を受け発信機の発する電波を民間ヘリやドローンから捉えて場所を特定し、公共の救助組織に通報するサービスです。さらに、二次捜索発生時には捜索隊を派遣致します。

また 1 分でわかる動画も作成しております。こちらも参考をお願いします。

<https://youtu.be/Floqn6gHoDY>

講座の際に、さらに詳しくご説明できればと思います。

(2)①遭難時のヘリでの捜索は、「ココヘリ」が全て対応して頂けるのですよね？

この場合、捜索のみで救助は「ココヘリ」では行わない…と思って良いですね。

②各県警の救助隊は、「ココヘリ」の信号受信器を持っているのでしょうか？

また、今後そうなることが考えられるのでしょうか？ (提供を含む)

③ココヘリに対応していない地方自治体に、何か働きかけはしているのでしょうか？

以上 よろしく申し上げます。(#6)

(A)

①ココヘリは山岳遭難時に一番時間のかかる遭難位置の特定をメインに、警察、消防などの捜索組織と連携し捜索活動を行うサービスとなります。

②HP にも掲載させていただいておりますが、現在、全国 38 都道府県の警察/消防が導入・運用しております。

③災害や救助にかかわる組織にはこちらからもアプローチをさせていただいております。また、捜索活動において捜索組織と連携していく中で導入をいただいている事例も増えております。

(3)私の所属する「山の会」の雪訓で受信機を雪に 10cm 程埋めたところ、捜索機での反応がゼロになってしまいました。

複数のココヘリ受信機(1年程度のもの含む)や弊会の捜索機(数年以上前)に不都合があるのでしょうか？

ザックの上面に入れておいても、検索してもらえないなら、残念なことなので、念押し、性能や受信能力について確認させてください。（#9）

(A)

100%を保証するものではありませんが、弊社での実験では、10cm 程度あれば受信可能となります。

また、雪崩ビーコンとの比較を聞かれることがございますが、検索範囲や検索方法が違うので弊社では別物と考えており、併用もおすすめしております。

ご参考までにココヘリのサービス開始からこれまでに対応した案件は、『262 件』です。

その内、

『32 件』の事案でココヘリ発信機による検索、発見を実現。

『68 件』の事案では、全国の警察/消防と連携、検索協力を行いました。

残りの『162 件』の事案では、会員様はもとよりご家族の不安にも寄り添い、相談をサポートしています。

さらに検索を開始してから、40%が 60 分以内、86%が 3 時間以内での発見を実現しています。

ココヘリオペレーターの持つ専用受信機では、最長 16km から受信可能となります。

(4) 労山の担当です。

「労山基金の見直しに関係するので、担当者は参加のこと」と会からの依頼がありましたので参加します。

19 時からとのことですが、オンラインに入れるのは、19 時半頃になりそうです。

よろしく申し上げます。（#10）

(A)

承知いたしました。

(5) 登山時報（季報）2023 夏号をみて、興味を抱きました。（#15）

(A)

ありがとうございます。講座にて改めてご説明させていただきます。

以下は、受講後に届いた質問・意見などです。

(6) 会では 2014 年にヒトココ親機 1 台、子機 3 台を購入しています。

子機の発信能力は、現在のココヘリに比べて、劣っているのでしょうか。

できれば親機を含め『性能の比較』が知りたいです。（#4）

(A) 送受信について性能差はありませんが現行の子機はスイッチが無く

アプリと連携が可能な Bluetooth が内蔵されています。

- (7)①検索は、本来行政（警察・消防 国民の財産・生命を守る）の仕事？
- ・山岳遭難に特化しているので、行政機関より効率が良さそうなので、費用は行政（税金）負担があるべき姿。（連携は不自然？）よって行政から委託を受けてやるのが理想・妥当？
 - ・個人負担としてやや高い感じ。 初年度 8800 円 次年以降 5500 円
もちろん、実際に亡くなった家族・本人にとっては有益。
 - ・受信機・発信機は日進月歩。経年劣化は防げない。発信機が入会時のまま同じなのは、納得できない。定期的に最新 version と交換してほしい。
- ②時間がたてば、行政は検索を打ち切る。ココヘリはどうするのか？
- ・補償上限まで検索を続けるのか？
 - ・どんな体制で検索するのか？
- ③行方不明が前提なので、単独行又はグループ全員の同時行方不明だけが対象？
- ・自分は基本的に単独で山にはいかないが、街中で行方不明にはなりうる。
その場合に検索してもらえるのか？
- ④個人賠償責任制度の対象変更と検索実施・完結との繋がりはあるのか？
例えば「登山届」が無ければ、無料検索（警察との連携）もしないのか？
登山ポストが推奨されるが、紛失・棄損される可能性大（長期無回収・水濡れ？）
登山計画の提出の定義があいまい（警察・所属会・家族・ココヘリ社？）
登山計画受け取り窓口もあいまい（連絡でも可？ 例えば家のデスクに？）
一般的に保険加入を勧めるが、支払いは細かい約款をもとに拒否？
- ⑤発信電波の強度その他電波法との関係は分かりませんが、スマホに組み込むのは不可能なのではないでしょうか？アプリとして購入？（#15）

(A)

- ①行政から委託いただけるようなサービスを目指します。送受信機 Ver 更新についてはご意見としてご参考にさせていただきます。
- ②規約の通り上限までは民間の救助組織による検索を行います。
- ③検索対象は基本登山計画の提出されている山中です。個人や団体は問いません。
- ④個人賠償のご質問が理解できずお答えできず申し訳ございません。登山届に関しては出てない場合はご説明いたしましたように検索開始までに時間を要したり、山岳遭難ではなく行方不明者扱いになり山岳遭難として検索できない場合も出てきます。ココヘリでは速やかな検索の為、マイページへの届をお願いしております。

(8)当日の準備等ありがとうございました。大変参考になりました。

参加しての感想や提案などを以下に書きます。

- ① 単独登山者の事故時の検索には有効な手段と思います。発信器の性能にまだ限界があるように思えますが、今後技術的な問題解決により信頼性の向上に期待したい。

② 運用面では、会員の増加に伴い会員のニーズに合った運用の進展に期待します。

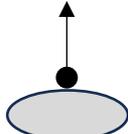
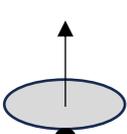
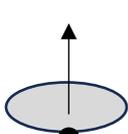
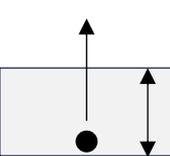
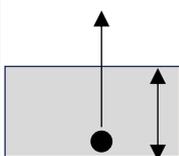
③ココヘリシステムの疑問

当日質問も行いましたが、警察、消防など公的な機関がココヘリの受信機を備えて対応ができるようになれば、ココヘリの役割がなくなるのではないかと？

(ビジネスモデルが成り立つか?)

他のサービスが必要となるのでは。このようにならないければ良いのですが。

③ 発信器の性能上の限界の話がありました。下表のような説明があると分かり易い…と考えます。いかがでしょうか？(注:下表中の数値や○等は仮定です)今後の発信器の性能向上に期待したい。(＃6)

	1. ザック上	2. ザック下	3. 人体下	4. 水中	5. 雪中
発信器 設置場所 イメージ					
性能% (仮に)	100	50	50	水深 100 mm 70 500 mm 30	積雪 500 mm 80 1000 mm 50
今後性能 向上の 可能性		○	○	○	○
その他					

※ユーザーは発信器の設置場所の工夫が必要。

(A) 現在はココヘリは山岳遭難において他にはない唯一のサービスをご提供しており現在も発信機の性能向上を行っておりますがご意見をご参考にし、さらに多くの方にココヘリの必要性を知っていただけるように善処いたします。また説明表は今後の説明書等の参考にさせていただきます。ご意見、ご提案ありがとうございました。

参加申込書に記載されていた質問に対して、講師の清水さん(AUTHENTIC JAPAN 株式会社)に回答を記入していただきました(青字部分)。

当日の講座でも質疑応答の時間を設定していますので、どしどし質問をしていただき、直接、講師の清水さん及び大峰さんから回答をいただき、日ごろ抱えている疑問・不安などを解消し、今後の山行に活かしていただきたいと思います。

(abiko:2023/8/22/Tue.)

<追記>

受講後にも、感想と共に質問や提案などが寄せられました。中には、質問・提案が混在したモノもあり、便宜上『Q&A』に記載しました。(abiko:2023/9/8/Fri.)